

全国街路事業促進協議会 会長賞

都市計画道路 国道線整備事業

(表彰対象者：兵庫県姫路土木事務所)

表彰の理由

特別史跡「姫路城」の調和・保存に配慮し、ゆとりと潤いのある都市空間の創設に寄与した。特に、文化財を現状保存することに配慮し、城をイメージしたデザイン、地元にじみ深い材料により整備した。そして、地域住民の地下道の清掃等維持管理に対する協力及び河川への錦鯉の放流等地元の積極的参加により、姫路市のシンボルとしての役割を果している。

事業のあらまし

姫路市は、兵庫県南西部の西播磨地域の中核都市であり、この中心市街地には、全国的に知られている国宝姫路城がある。この姫路城に接し、市の中心市街地を東西に結ぶ幹線道路が、都市計画道路国道線である。本事業は、一般国道2号の拡幅事業であり、それとともに、街路と史跡の調和を図つたものである。

- 延長：899m
- 幅員：27～30m
- 事業費：3,400百万円
- 事業実施期間：昭和49年2月～平成3年3月



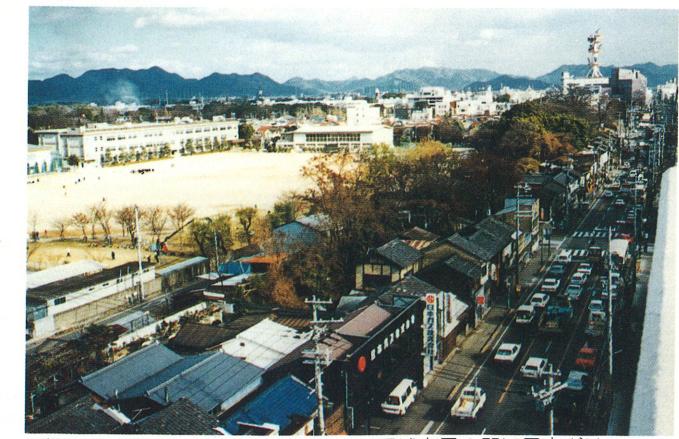
西側から東側をのぞむ。文化財である土塁の復元と国道の整備が調和して行われている。



白鷺橋の石組、親柱を再利用している。姫路城の門跡を復元、保存できるよう道路の構造で対応している。



キャブ事業を同時施行し、ゆとりある空間が創出され、城周辺の景観に配慮している。



西側から東側をのぞむ。国道2号と姫路城土塁の間に民家がはりつき、城周辺の景観を阻害している。(整備前)



横断地下歩道の入口部分。城をイメージしたデザインとなっている。

事業遂行上の工夫

街路と史跡の調和・保存を課題とし、ゆとりと潤いのある都市空間の創出を図った。主な内容は、①道路敷内の文化財は現状保存または埋蔵位置の明示を行った。②横断地下歩道の外観を城をイメージしたデザインとした。③白鷺橋の石組、親柱は、昭和初期の架設時のものを再使用した。④キャブシステムにより地中化を行った。